

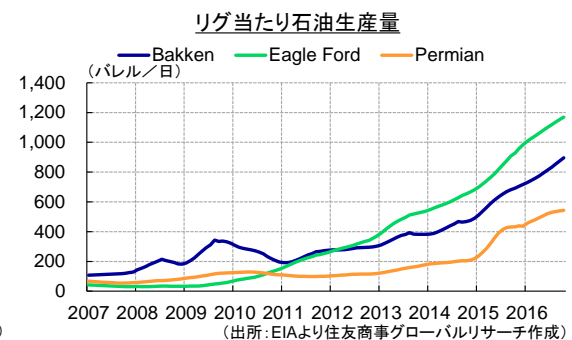
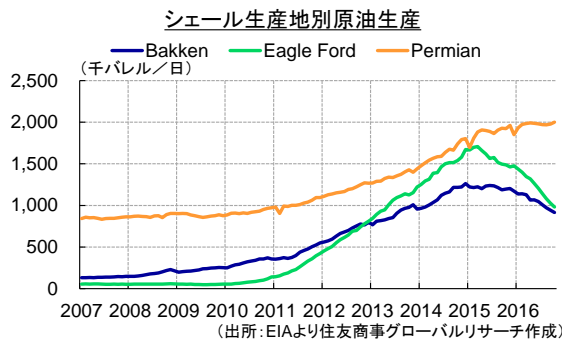
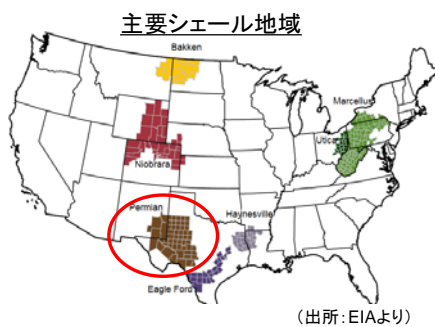
米国原油生産を下支えする Permian 盆地

調査レポート

2016年10月7日
 経済部 シニアアナリスト
 舘 美公子

◇注目される Permian 盆地

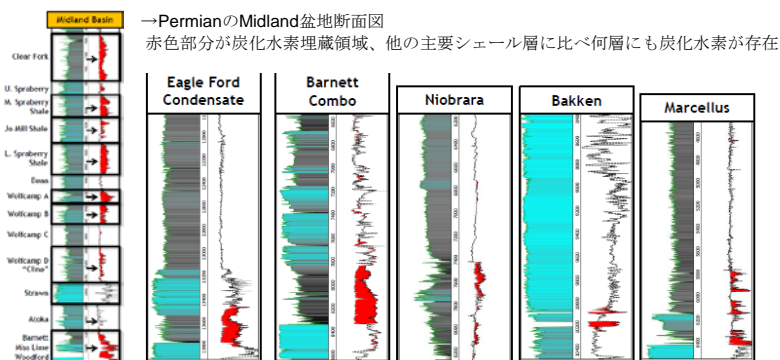
米国ではテキサス州西部とニューメキシコ州の東南部にまたがる Permian 盆地が、原油生産の回復を牽引する地域として大きな注目を集めている。原油価格が5月に50ドル付近に回復したのを機に底打ちし、それ以降米国の石油掘削リグ数は増加を続けているが、増加した98基のうち70%を Permian 盆地が占めている。Permian 盆地の原油生産シェアが全米の25%に過ぎないことに鑑みれば、Permian 盆地でのリグ数の増加率がいかに高いかうかがえる。また、原油価格が下落した2014年以降、他のシェールオイル生産地 Eagle Ford はピーク時から原油生産量が40%、Bakken では25%減産となったが、Permian 盆地のみ原油生産が減少に転じていない。



◇地質構造に強み

Permian 盆地が他のシェールオイル地域に比べ優位性を保っているのは恵まれた地質構造にある。Permian 盆地は通常のシェール層に比べ原油の堆積する層がミルフィーユ状に幾重にも重なっているという特徴がある。このため、他のシェール層と同じ投下資本でより多い原油を確保でき、原油価格が50ドル以下でも生産維持が可能となっている。さらに、Permian 盆地は他のシェール層に比べ開発時期が遅かったこともあり、生産効率の改善余地も大きい。リグ当たりの石油生産量は、500バレルと Eagle Ford の半分以下で、今後採掘経験を蓄積するなかで更にリグ当たりの生産を増やせる強みがある。

主要シェール層/盆地の断面図



本資料は、信頼できるとされる情報ソースから入手した情報・データに基づき作成していますが、当社はその正確性、完全性、信頼性等を保証するものではありません。本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社及び住友商事グループの統一した見解を示すものではありません。本資料のご利用により、直接的あるいは間接的な不利益・損害が発生したとしても、当社及び住友商事グループは一切責任を負いません。本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。

◇Permian の資産買収の状況

2016 年発生した米上流投資の半数が Permian 盆地の権益買収に関わるもので、原油安のなかにあってもいかに魅力的かを示す一例となっている。6 月以降実施された資産買収 7 件のうち、5 件の買収価格は 1 エーカーあたり 3 万ドルと原油価格が 100 ドルで推移した 2014 年上期から取引価格が変わっていない。QEP Resources に至っては 1 エーカーあたり 6 万ドルと破格の買収を実施しており、Permian 盆地の権益の収益性の高さを裏付けている。

また、ロイターによると 2016 年 1~8 月のシェール開発企業による新株発行額は 204 億ドルと 2014 年に並び、1996 年以來の高水準となっている。新株発行した 32 社のうち、16 社が資金調達用途を権益取得に充てており、Permian 盆地権益を購入した QEP Resources、Concho Resources、SM Energy などが含まれる。

Permian関連のM&A一覧

	買い手	売り手	買収価格 (百万ドル)	権益 (エーカー)
6月15日	Pioneer Resources	Devon Energy	435	28,000
6月21日	QEP Resources	非公開	600	9,400
7月13日	Diamondback	Luxe Energy	560	19,180
7月22日	Silver Run	Centennial	1,375	38,000
8月8日	SM Energy	Rockoil	980	24,783
8月15日	Parsley Energy	非公開	400	9,140
8月15日	Concho Resources	Reliance Energy	1,625	40,000
8月23日	PDC Energy	Kimmeridge	1,500	57,000
9月6日	Callon Petroleum	非公開	327	5,667
9月8日	EOG Resources	Yates	2,340	186,000

■ 企業買収

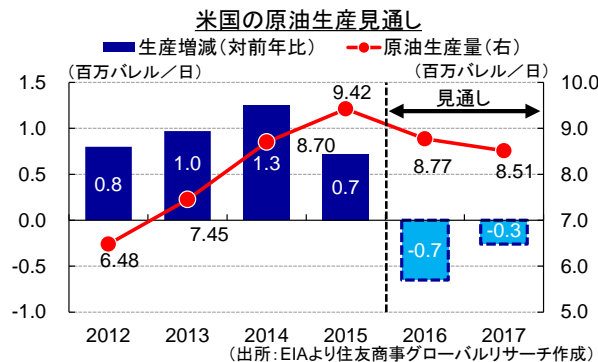
(出所: Seeking Alphaより住友商事グローバルリサーチ作成)

◇更なる埋蔵量の可能性

9月7日に米石油大手 Apache Resources は、Permian 盆地の東部に新たな大規模油田を発見したと発表。東部は粘土質であるためこれまで重要視されてこなかったが、同社は初期調査の原油埋蔵量を 30 億バレルと試算している。今後より精緻な調査が必要だが、仮に採算性の合う油田であれば Permian 盆地のポテンシャルがさらに高まる可能性がある。

◇今後の見通し

米エネルギー省は Permian 盆地を中心とする石油掘削リグ数の増加をうけ、9月に米国の原油生産見通しを上方修正し、減産幅を 2016 年日量▲65 万バレル（前回見通し▲70 万バレル）、同▲26 万バレル（前回見通し▲42 万バレル）とした。また、同地の主要生産者 Pioneer Resources は、Permian 盆地につき 2025 年まで現状の油価で毎年日量 30 万バレルずつ増産でき、2025 年には日量 500 万バレルに達すると見込むなど、長期的にも米国の原油生産を牽引し続けることが期待されている。



以上